ポジショニングと背抜きをスタッフに周知し効果的な除圧を目指して
–褥瘡リンクナースによるスタッフ演習の実践報告–

橋本市民病院　看護部　駒井郁子　市村智子　濱田一世　山本秀世　永石絵梨
井邊芽実　小倉由莉　増田愛子　東本桂

【はじめに】

日本皮膚科学会は、褥瘡に対する予防・ケアの基本コンセプトとして、圧迫やずれを回避することを挙げている（日本皮膚科学会ガイドライン, 2017）。A 病院では、褥瘡予防対策として、ポジショニングピロー（以下ピロー）を使用した体位変換を褥瘡予防対策として推進している。A 病院でのピローを用いた体位変換の普及啓発は、毎年実施される新人看護師技術研修の機会を活用し、新人看護師を対象に、皮膚・排泄ケア認定看護師による褥瘡予防についての講義や、体位変換・ポジショニング・背抜きの演習を実施している。一方で臨床では、ピローの使用率や背抜き実施の定着率の低さが中堅看護師層に目立っており、新人看護技術研修を受けた卒後 2–4 年目看護師においても、臨床経験年数が上がるに従い、ピローの使用率や背抜き実施の定着率が低下する傾向が見られた。

A 病院では日常生活度の低い C1，C2 の褥瘡発生リスクの高い、いわゆる「介助を要する状態」にある入院患者は、1 ヶ月平均して 10 人前後となっており、褥瘡発生リスクの高い介助を要する患者に、看護職員全員が体位変換・ポジショニング・背抜きを徹底できることが、褥瘡予防対策となる。そのためには，新人看護師だけでなく A 病院の看護職員全員を対象に、褥瘡予防対策であるポジショニングや背抜きの普及・啓発を行なっていく必要がある。さらに，普及・啓発後の褥瘡予防対策の継続性を鑑みると、看護職員のポジショニングや背抜きのフォローアップは、皮膚・排泄ケア認定看護師だけでなく、各病棟に配置されている褥瘡リンクナースが実施することが効率的であると考えられる。

【目的】

本研究では、A 病院の病棟で勤務している看護職員スタッフ全員が、介助を要する患者にピローの使用や背抜きができることを目指し、褥瘡リンクナースによる演習を実施し、ポジショニングや背抜きの定着について評価することを目的とした。

【方法】

A 病院における褥瘡予防対策の現状把握

褥瘡リンクナースによる演習実施前の A 病院の褥瘡予防対策の現状を把握するために、ピローを用いたポジショニングの実施状況を確認した。調査期間は 1 ヶ月間とし、調査内容は、2023 年 6 月の全病棟の平均ピロー使用率とした。

褥瘡リンクナースによる演習

介助を要する患者にピローの使用や背抜きができることを目指すために、病棟看護職員に対する褥瘡リンクナースによる演習実施を企画した。病棟で働く看護職員に対する褥瘡リンクナースによる演習は、適切なピローを挿入、ポジショニング手袋の使用、背抜きが「ある」「なし」の違いを体感できるように構成した。演習実施者である褥瘡リンクナースへの教育は、皮膚・排泄ケア認定看護師が 2023 年 8〜9 月に演習実施者教育を実施した。なお、ポジショニング手袋はビニール袋を代

用とした。病棟で働く看護職員への演習を行うにあたり、褥瘡リンクナースがピローの使用や背抜きを用いた「仰臥位から側臥位」「仰臥位から長座位」のポジショニング手順書を作成した。褥瘡リンクナースが、演習指導を行うにあたり、基本的な体位変換と背抜きについて、看護職員が演習を始める前に手本となる実演演習を行ってから、看護職員に実施をするように統一をおこなった。2023年11月～2024年3月に各部署の看護職員に演習を実施し、演習は少人数で行った。

ポジショニング・背抜きの定着評価

ピローの使用や背抜きを用いたポジショニングの理解や実施の評価は評価表を用いた。看護職員のポジショニングや背抜きの定着の評価は、2024年5月の1ヶ月間における全病棟の平均ピロー使用率を算出した。

「長座位」評価表　（図1）

	確認および注意点	評価者（自己）	評価者（他者）
①	患者はベッドの中心に寝ていることが確認できる		
②	患者に説明ができる		
③	体がずれないように足元側から挙上げ、頭側を挙げている		
④	挙上後は、背抜きができている		
⑤	寝衣のしわをのばすことができる		
⑥	クッションを使用し安楽な体位がとれる		

「30度側臥位」評価表　（図2）

	確認および注意点	評価者（自己）	評価者（他者）
①	患者はベッドの中心に寝ていることが確認できる		
②	患者に説明ができる		
③	患者の体に合わせてクッションが挿入できている		
④	背抜きができている		
⑤	寝衣のしわを伸ばすことができている		

評価表は、他者評価と自己評価とし、できる〇できていない×の評価とした

【倫理的配慮】

患者の個人が特定されないよう配慮し、看護部倫理委員会の承認を得た。

【結果】

皮膚・排泄ケア認定看護師による、7名の褥瘡リンクナースへ演習実施者への教育実施結果

演習評価表　（図3）

	自己評価	他者評価
長座位	全項目○で「できる」	全項目○で「できる」
30度側臥位	全項目○で「できる」	全項目○で「できる」

全員が全項目について、他者評価、自己評価ともに「できる」であった

褥瘡リンクナースによる看護職員演習 7 部署教育実施結果

B 病棟　32 名実施　C 病棟　34 名実施　D 病棟　32 名実施　E 病棟　31 名実施　F 病棟　31 名実施　G 病棟　15 名実施　H 病棟　13 名実施

病棟で働く看護師・ケアワーカー（夜勤をおこなっている）対象に全員演習を実施することができた。

演習評価表　（図 4）

	自己評価	他者評価
長座位	全項目○で「できる」	全項目○で「できる」
30 度側臥位	全項目○で「できる」	全項目○で「できる」

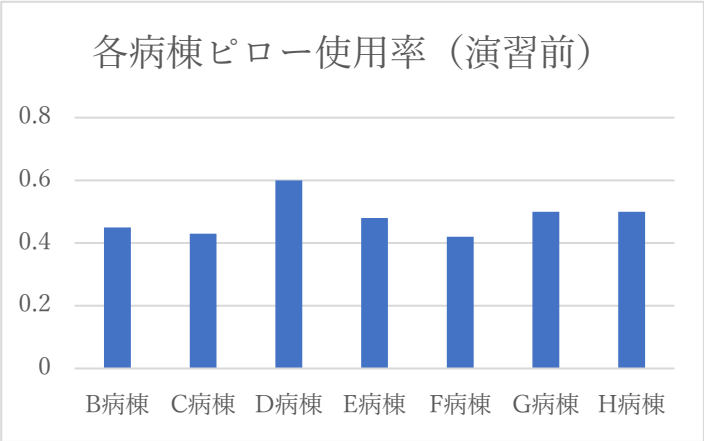
全部署、他者評価、自己評価ともに「できる」であった

演習後の感想

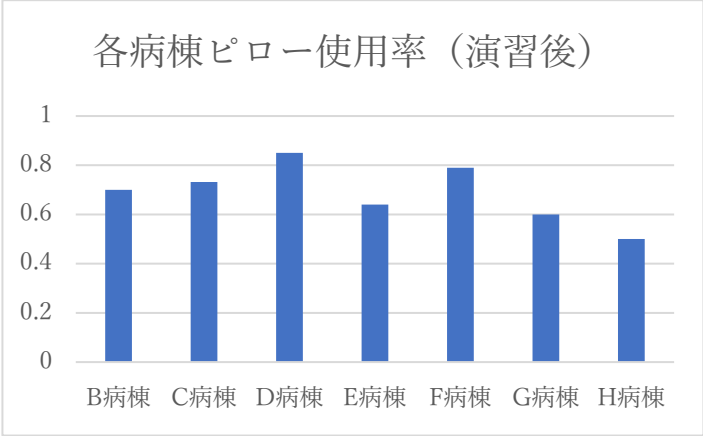
褥瘡リンクナースからは、「新人看護師技術研修で習っていることを知らなかった。新人看護師が実践できていないのが残念である。自分達がしっかりと実践をしていきたい。」「背抜きがあるのとないのとではこんなに違いがあったのかと思った。看護職員に是非体感してほしい。」「クッションを入れたらいいと思っていたが、患者の安楽まで考えていなかった。」など意見が聞かれた。各病棟の褥瘡リンクナースによる演習後の看護職員の意見として「背抜きについては知っていたが、ビニール袋を代用するのは知らなかった。」「背抜きについては知らなかった。」「演習ができて患者さんの苦痛や、安楽について考えるようになった。」など多数の意見があった。

ピロー使用率

演習実施前である 2023 年 6 月の全病棟の平均ピロー使用率は，50％であった。褥瘡リンクナースによる、各病棟の看護職員へのピローの使用や背抜きを用いたポジショニングの演習後の全病棟の平均ピロー使用率は、73％であった（2024 年 5 月の全病棟平均ピロー使用率）。



（図 5）



（図 6）

【考察】

褥瘡予防においてポジショニングや背抜きは除圧ケアの中でも特に重要なケア技術である。全ての看護職員がその意義と方法を理解し、日常的に実践できることが求められる。実際の現場は、体位変換を行っていてもピローが挿入されていなかったり、除圧が不十分であったり、背抜きが省略されている場面がどの病棟にもみられた。こうした現場の課題を踏まえて、看護職員が実践できるケアにすることを目標に掲げ、体験型の演習を選択した。演習形式を選択した理由として、これまでの新人看護師研修でも「患者役を体験してみて、初めて、身体にかかる圧、不快感がわかった。」といった声が多く、知識だけでは伝わらない部分があると、褥瘡リンクナース自身が感じたからである。今回、褥瘡リンクナースが中心となり、演習形式でのポジショニング・背抜き指導を病棟で働く看護職員に実施したことは、看護現場における意識の向上に大きく関与することができた。

演習を企画・実施するにあたって、皮膚・排泄ケア認定看護師の助言を受けながら、目的・目標・手順・評価基準を明確にし、統一された手順書・評価表を用いて看護職員に指導をおこなった。褥瘡リンクナース自身が「教える」立場として準備を重ねることで、単に技術を伝えるだけでなく、その背景となる根拠を再確認し、現場で自らが指導できる存在へと成長する機会となったと考える。また、褥瘡リンクナースが各病棟の看護職員に合わせて、演習計画を柔軟に立案・実施したことで、病棟で働く看護職員全員に演習することができた。そして、各病棟の褥瘡リンクナースが「教える」ことで、看護職員にとって「褥瘡予防ケアは特別なものではなく、誰にでもできる基本ケアである。」という認識を持つことができ、ピロー使用率の改善といった成果に繋がった。これは、褥瘡リンクナースが現場にいるからこそ可能であったと考える。

今後は、演習で得た知識や技術が、日常ケアに繋がるよう評価・指導することが、褥瘡リンクナースに求められる次の役割である。褥瘡リンクナース自身が「教える」立場として、継続して褥瘡予防に取り組んでいきたい。

【結論】

褥瘡予防対策にポジショニングは褥瘡発生予防の重要なケアの 1 つである。全看護職員が適切なポジショニングを実践できるようにするためには、皮膚・排泄ケア認定看護師だけでなく指導できる褥瘡リンクナースが重要である。今後は定着化に向けて褥瘡リンクナースがリーダーシップをとって，患者へのポジショニング、背抜きの実施を徹底していくことが課題である。

参考文献

日本皮膚科学会褥瘡診療ガイドライン改証委員会：褥瘡診療ガイドライン 2017（第 3 版），東京，金原出版，2017.

日本褥瘡学会編：褥瘡予防・管理ガイドライン第 3 版，照林社，2012.

田中マキ子：ポジショニング学-体位管理の基礎と実践-，中山書店，2013.